

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

# さっぽろ 市議団ニュース

<第3回定例会>

2015年10月8日

No. 137

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

## 地域医療機関との連携強め、増加する認知症患者などへ ゆきとどいた診療とケアを 村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は7日、決算特別委員会で市立札幌病院の地域医療機関との機能分化や連携について質問しました。

村上議員は、入院、通院患者ともに減少し、診療収益をどう上げていくかが課題と指摘。「そのためにも地域の医療需要に応えた対策が求められているが、高齢者医療の需要をどう捉えているのか」「高齢化による合併症や認知症患者が増加するなか、市立病院の機能や地域における役割をどのように考えているのか」とたずねました。

蓮見経営管理部長は、「入院、外来とも65歳以上が過半数を超え、心疾患、脳血管疾患など高齢者に多い病気や認知症、終末期への対応が一層必要になる」、認知症における市立病院の役割について「地域医療の第一線を担うかかりつけ医の支援にある」とのべました。

村上議員は、認知症の患者が退院する際、「引き続き地域のかかりつけ医へ依頼するのか様々な困難を伴うと思うが、逆紹介にあたってどのようなフォローを行っているのか」「介護関係施設との連携を深める必要があると思うがいかがか」とたずねました。

関病院事業管理は、フォローについて「ご家族などの要望や状態に応じた病院への転院、在宅診療医や看護サービスの調整を行う」「介護施設と連携する医療機関への転院が中心となりますが、新規施設への退院調整も視野に入れたケアマネージャーや介護老人保健施設、居宅介護事業との連携強化も図って参りたい」とのべました。

## 市営住宅の計画修繕費が空き部屋の修繕に回されている のは問題、家賃減免改定による値上げ見直しを

池田由美議員が質問

日本共産党の池田由美議員は7日、決算特別委員会で市営住宅の計画修繕や暖房費などについて質問しました。

池田議員は、市営住宅の計画修繕予算の執行が54%にとどまっていることを示し、「この予算が空き部屋の修繕に回されているのは問題ではないか」「市民団体がアンケート調査を行い205件の修繕要望を出したが“残っている部分がある”という状況で、“強くいわなければ修繕してもらえない”という声も聞く、実態調査すべき」とたずねました。

杉村住宅担当部長は、「近年、空き部屋修繕費が予算を上回り、計画修繕費が抑制され、予定通りに進んでいない」と認めたものの実態調査は「考えていない」とし、「個別の要望があれば対応する」とのべました。

また、池田議員は、家賃減免の見直しによる値上げについて「通院も対象だった医療費控除が入院費のみとなり低所得者の負担は大変、もとに戻すべき」と求めたのに対し、杉村部長は「市営住宅に入居できない市民との公平性の観点から見直しを実施している」としました。

池田議員は、「低所得者に住宅を保障するのが市営住宅であり、民間との比較自体すべきではない。入りたくても入れない市営住宅の不足こそ問題」と指摘しました。